

出雲市中小企業景況調査報告書

< 2021年4月～6月期 >

1. 調査期間 令和3年7月1日（木）～令和3年7月16日（金）

2. 調査対象企業 出雲市内事業所180社 回答数176社 回答率97.8%

業種	出雲商工会議所管内		平田商工会議所管内		出雲商工会管内		斐川町商工会管内		合計	
	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数
建設業	13	13	4	4	4	4	4	4	25	25
製造業	18	18	7	7	6	6	5	5	36	36
卸売業	9	9	2	2	3	3	3	3	17	17
小売業	23	22	9	9	8	8	9	9	49	48
サービス業	27	26	8	8	9	8	9	8	53	50
合計	90	88	30	30	30	29	30	29	180	176

3. 調査実施機関 出雲商工会議所、平田商工会議所、出雲商工会、斐川町商工会

今 期（2021年4－6月）の 概 要

本調査は、出雲商工会議所が平田商工会議所、出雲商工会、斐川町商工会と共同で市内事業所から調査対象事業所180社を選定し実施しています。

概 況（前期調査＝2021年1－3月期）

全業種の業況DIは、前期比の業況DIで△16.1（前期調査△22.8）、前年同期比でも△6.5（前期調査△31.2）とマイナス幅は縮小しました。建設業、小売業の前期比・前年同期比はマイナス幅が拡大しています。

来期（令和3年7～9月期）の見通し業況DIは、△9.9（前期調査△14.7）とマイナス幅が縮小しています。小売業はマイナス幅が拡大すると予測しています。

全業種の売上DIは、前期比では△6.3（前期調査△15.6）とマイナス幅が縮小しました。卸売業、サービス業はマイナスからプラスに転じています。前年同期比では5.3（前期調査△32.7）とマイナスからプラスに転じました。建設業はマイナス幅が拡大しています

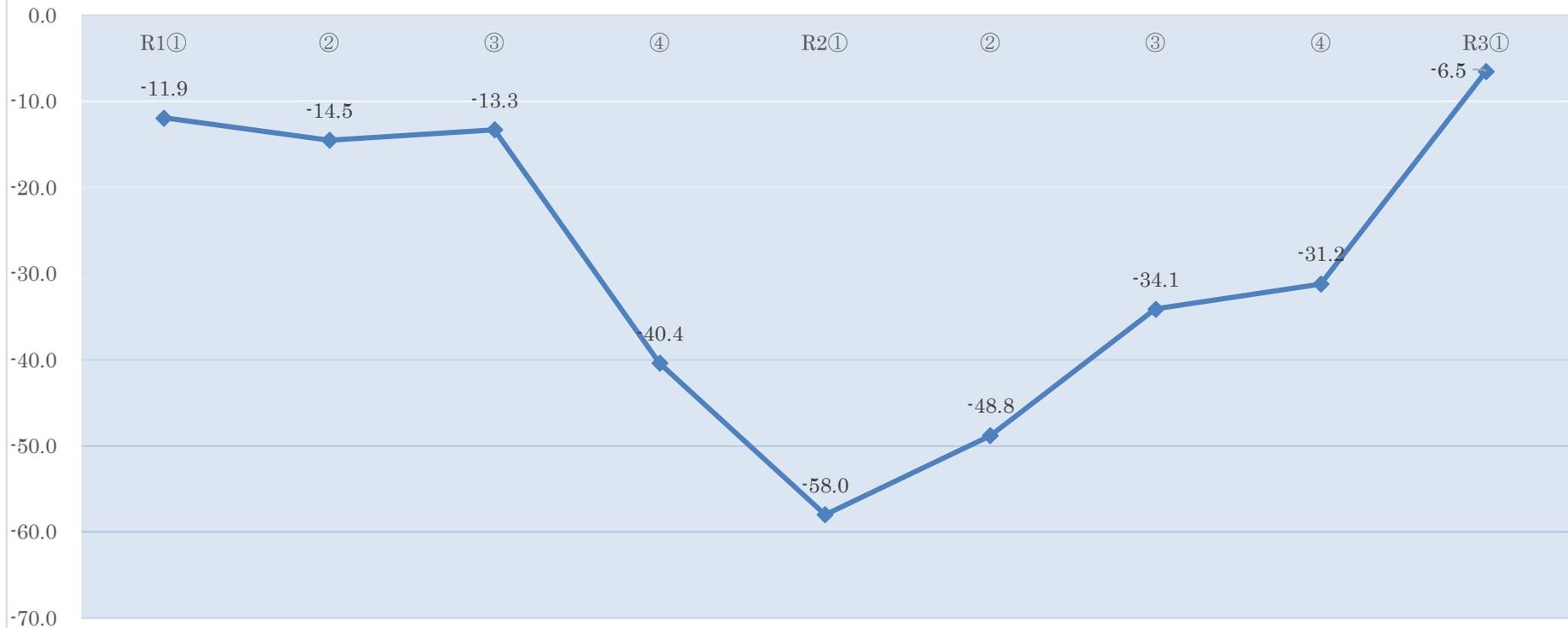
来期（令和3年7～9月期）の見通し売上DIは、△3.0（前期調査△18.9）とマイナス幅が縮小しました。卸売業はマイナス幅が拡大すると予測しています。

設備投資については、今期実施した割合が33.9%（前期調査35.1%）と前期調査より減少しました。実施した設備投資の主なものは、「機械・備品」26.2%、続いて「OA機器」23.1%でした。

来期（令和3年7～9月期）については、設備投資を計画している割合も36.5%（前期調査39.6%）と減少しています。割合の高い順に「機械・備品」33.3%、続いて「車両運搬具」18.8%となっています。

経営上の問題点としては、「需要の停滞、受注減少」を1位にあげる事業所が50.0%（前期調査56.4%）、2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」21.8%（前期調査12.9%）となっています。

全業種 業況DI 前年同期比



業種別景況調査の主要DI (前期調査=2021年1-3月期)

1、建設業

- ・今期業況DIは、前期比で△16.0 (前期調査△8.0)、前年同期比で△8.0 (前期調査△4.2) と、前期比・前年同期比ともにマイナス幅が拡大しました。
- ・売上DIは、前期比では0.0 (前期調査24.0) とプラスからゼロに転じ、前年同期比では△20.0 (前期調査△4.2) とマイナス幅が拡大しました。「建設業全体がコロナの影響で低速している。」、「元請会社の手持ち工事が減ってきている。」、「出雲市発注の公共工事の減少が感じられる。」といった受注の減少に関する意見がありました。

- ・来期業況見通しD Iは、今期比で△16.0（前期調査△37.5）、来期売上見通しD Iは、今期比で△8.0（前期調査△62.5）といずれもマイナス幅は縮小し、業況回復への期待感が伺えます。

2、製造業

- ・今期業況D Iは、前期比で△16.7（前期調査△5.9）、前年同期比で5.9（前期調査△30.3）と、前期比はマイナス幅が拡大した一方で前年同期比では、マイナスからプラスに転じています。
- ・売上D Iでも、前期比で△13.9（前期調査2.9）、前年同期比で11.4（前期調査△27.3）と、前期比はプラスからマイナスに転じた一方で前年同期比では、マイナスからプラスに転じています。「県外出荷は増加している。」「車両部品の売上は好調。」といった前向きな声がある一方で「ウッドショックの影響を受けている。」「電子部品が全国に品薄で納期が遅れてる。」といった仕入材料の不足により納期が遅くなっている企業もありました。
- ・来期業況見通しD Iは、今期比で△2.9（前期調査△5.9）、来期売上見通しD Iでも、今期比で8.8（前期調査△2.9）と、いずれもマイナス幅は縮小し、業況回復への期待感が伺えます。

3、卸売業

- ・今期業況D Iは、前期比で11.8（前期調査△35.3）、前年同期比で18.8（前期調査△52.9）と、前期比・前年同期比ともにマイナスからプラスに転じています。
- ・売上D Iでも、前期比で11.8（前期調査△52.9）、前年同期比で18.8（前期調査△35.3）と、前期比・前年同期比ともにマイナスからプラスに転じました。「観光の卸しは前年よりマシであったものの、前々年の20～30%であった。」といった声もあり、コロナ前への売上水準に戻っていない先も見受けられます。
- ・来期業況見通しD Iは、今期比で5.9（前期調査△12.5）、来期売上見通しD Iでも、今期比で△6.3（前期調査△6.2）と前期比はマイナスからプラスに転じ、前年同期比はほぼ横ばいでマイナスに留まりました。業況回復への期待感が伺えるものの、海外からの仕入れが困難である状況やウッドショックの影響を考慮し、売上増の見通しは厳しくなっています。

4、小売業

- ・今期業況D Iは、前期比で△16.7（前期調査△12.8）、前年同期比で△20.8（前期調査△17.0）と、前期比・前年同期比ともにマイナス幅が拡大しています。
- ・売上D Iでも、前期比で△23.4（前期調査△6.4）、前年同期比で4.3（前期調査△30.4）と、前期比はマイナス幅が拡大し、前年同期比はマイナスからプラスに転じました。コロナの影響で外出できないことによる売上減少の声が多くありました。

- ・来期業況見通しD Iは、今期比で△18.8（前期調査△8.5）、来期売上見通しD Iでも、今期比で△8.5（前期調査△19.1）前期比はマイナス幅が拡大し、前年同期比はマイナス幅が縮小しています。消費者の所得減少やコロナ関係の暗いニュースによる消費マインドの冷え込みを不安視する声があります。

5、サービス業

- ・今期業況D Iは、前期比で△25.0（前期調査△47.9）、前年同期比で△8.7（前期調査△51.0）と、いずれもマイナス幅が縮小しました。
- ・売上D Iでも、前期比で6.1（前期調査△44.9）、前年同期比で10.6（前期調査△56.3）と、いずれもマイナスからプラスに転じました。宿泊業では、WeLove 山陰キャンペーンや出雲のお宿応援キャンペーンによって既存客や県内客の利用があったものの、県外客の利用は減っており、その売上減少を不安視する声があります。
- ・来期業況見通しD Iは、今期比で△8.7（前期調査△16.3）、来期売上見通しD Iは、今期比で△2.1（前期調査△12.5）といずれもマイナス幅が縮小しています。コロナ禍における県外需要減による売上減少が続いています。

設備投資動向

1、今期設備投資

- | | |
|-------|---|
| 全業種 | 設備投資を実施した事業所の割合は33.9%（前期調査35.1%）と前期調査を1.2%下回りました。内訳としては、「機械・備品」が最も高く26.2%、続いて「OA機器」が23.1%でした。 |
| 建設業 | 実施割合は41.4%（前期調査48.4%）。「車両運搬具」の割合が最も高くなりました。 |
| 製造業 | 実施割合は41.5%（前期調査41.5%）。「機械・備品」の割合が最も高くなりました。 |
| 卸売業 | 実施割合は11.8%（前期調査31.6%）。「建物」、「OA機器」の割合が最も高くなりました。 |
| 小売業 | 実施割合は30.0%（前期調査26.9%）。「車両運搬具」、「OA機器」の割合が最も高くなりました。 |
| サービス業 | 実施割合は34.5%（前期調査31.4%）。「機械・備品」の割合が最も高くなりました。 |

2、来期設備投資

- 全業種 設備投資を計画している事業所の割合は36.5%（前期調査39.6%）と前期調査を3.1%下回りました。内訳としては、「機械・備品」が最も高く33.3%、続いて「車両運搬具」18.8%でした。
- 建設業 設備投資を計画している割合は48.4%（前期調査44.8%）。「機械・備品」、「OA機器」の割合が最も高くなっています。
- 製造業 設備投資を計画している割合は43.6%（前期調査58.7%）。「機械・備品」の割合が最も高くなっています。
- 卸売業 設備投資を計画している割合は27.8%（前期調査47.1%）。「OA機器」以外に対して投資の計画がされていました。
- 小売業 設備投資を計画している割合は40.0%（前期調査22.0%）。「機械・備品」、「OA機器」の割合が最も高くなっています。
- サービス業 設備投資を計画している割合は23.5%（前期調査33.3%）。「建物」、「機械・備品」、「付帯施設」の割合が最も高くなっています。

経営上の問題点

- 全業種 第1位は「需要の停滞、受注減少」で50.0%、第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」21.8%でした。
- 建設業 第1位は「需要の停滞、受注減少」で36.0%、第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」、「仕入・人件費以外の経費の増加」23.5%でした。

- 製造業 第1位は「需要の停滞、受注減少」で44.4%、第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」29.0%でした。
- 卸売業 第1位は「需要の停滞、受注減少」で47.1%、第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」、「店舗・機械・備品等設備の老朽化」18.8%でした。
- 小売業 第1位は「需要の停滞、受注減少」で50.0%、第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」が20.0%でした。
- サービス業 第1位は「需要の停滞、受注減少」で63.0%、第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」で18.4%でした。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」、「好転」したなどとする企業割合から、「減少」、「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。